

本校受検を考えているが、学校のことが知りたい、受検のことが知りたい、など様々なご質問にお答えしたいと思います。

Q&Aをお読みいただき、より詳しく知りたい、新たな質問等があれば、ご遠慮なくオープンスクール時の相談会でお尋ねになるか、本校へ直接ご連絡をいただければと思います。

受検に関する質問

Q①:御校の入試日程を教えてください。

A:令和7年度入学者選抜の日程は未定です。

令和7年度入学者選抜日程は、本年9月に京都府教育委員会・京都市教育委員会から発行される「令和7年度京都府公立高等学校入学者選抜概要及び前期選抜等実施要項」をご覧ください。

- ・願書受付:2月2日・5日 (※参考:令和6年度入学者選抜実績)
- ・学力検査及び実技検査:2月15日 (※参考:令和6年度入学者選抜実績)
- ・実技検査及び面接:2月16日 (※参考:令和6年度入学者選抜実績)
- ・合格発表:2月22日 (※参考:令和6年度入学者選抜実績)

Q②:美作品展の生徒作品やオープンスクール時に校内に展示している生徒作品を見ると、上手い作品ばかりで自信がなくなり、美工入学後、美術の授業についていけるかが不安です。

A:入学時に美作品展や校内展示している作品のレベルまで描ける人や、制作できる人はいません。入学後、授業の中で徐々に力をつけていきます。努力をすれば必ず上達します。安心してください。。

Q③:普通科高校との違いを教えてください。

A:本校は美術工芸科専門の高校としての教育課程を設けています。普通科高校に比べ美術に関する週当たりの授業時間数が多く、1年間に履修する全単位数の約3分の1が美術専門分野の授業時間数となります。

詳細は、学校案内2025を参考にいただくか、本校ホームページから教育課程表をご覧ください。

Q④:高校段階から普通科高校に行かず、美術専門の高校に行くことは、将来に不利になりませんか？

A:これからは社会の変化が激しく、予測困難な時代だと言われています。主体的に学び、課題を解決する方法を見つけ出すような新しい価値を創造する力が必要です。本校では美術専門科目はもちろん、普通教科目、総合的な探究の時間、特別活動などすべての教育活動において社会で活躍するために必要な力を育成します。

Q⑤: 合否の判定の際、学力検査と実技検査の比率は同じですか？

A: 令和7年度入学者選抜の比率については、まだ正式に決まっています。今年9月に京都府教育委員会・京都市教育委員会から発行される「令和7年度京都府公立高等学校入学者選抜概要及び前期選抜等実施要項」をご覧ください。

参考として、令和6年度入学者選抜では、学力検査(50点×3教科)150点、実技検査(デッサン150点、イメージ表現135点)285点、面接30点、中学からの報告書135点の合計600点満点で総合的に合否を判定しました。

Q⑥: 実技検査でどのような問題が出るのかはわかるのですが、どのような作品を作ればいいのか分からないので教えてください。

A: 実技検査の「鉛筆デッサン」及び「イメージ表現」の出題の意図(ポイント)について、学校案内2025に記載していますので、それを踏まえて練習をしてください。過去の合格者作品は、本校の各種オープンスクール時に展示します。

Q⑦: 中学校の成績や学力検査(国語・数学・英語)の点数が高くないと合格できないと聞いたことがあります。どれくらいあればいいのでしょうか？

A: 中学校からの報告書の配点は、令和6年度入学者選抜においては、中学1年から3年までの9教科の5段階評価の合計135点でした。また学力検査の配点は150点でした。学力検査の合格者の平均は、6割程度です。本校の過去問題を練習問題として取り組んでおきましょう。いずれにしても、中学校での日々の学習、家庭での予習・復習にしっかり取り組むことが大切です。合否判定は、各検査項目の得点をもとに、報告書・学力検査だけでなく、実技検査や面接もあわせて総合的に判断して合格者を決定しています。

Q⑧: 実技検査の対策のためには、画塾に通わなければなりませんか？

A: 本校の実技検査は、中学校の美術で学ぶ内容から逸脱(いつだつ)した課題を出題しているわけではありませんが、1つの課題を2時間という限られた時間内に完成させなければなりません。実技検査を受けるにあたっては、デッサンやイメージ表現の練習を重ねておく必要があります。その際、指導者に作品制作のポイントや不十分な点、弱点などをアドバイスしてもらうほうが、自分一人で練習するよりは早く上達すると思います。まずは、中学校の美術の先生に相談してどのように練習していけばいいのかアドバイスを受けてください。画塾へ行くことが必須ではありません。

Q⑨: 他府県から受検は可能ですか。可能ならどのような手続きが必要ですか。

A: 他府県から志願できるかどうかも含めて、本校副校長または教頭までご相談ください。

TEL: 075-585-4666

Q⑩:日程が合わずオープンスクールに参加できないのですが、入試や学校等に関する情報を教えてもらうことはできますか？

A: WEB 個別相談や電話での相談を行っています。進路選択に役立てていただけるよう情報を提供させていただきます。

●WEB 個別相談 → 本校 HP から申し込み(5月～12月)

●電話相談 → TEL:075-585-4666(副校長または教頭)

学校の教育理念・教育目標等に関する質問

Q①:学校の教育理念、教育目標、将来に向けて生徒につけさせたい力はどのようなものですか、教えてください。

A:本校の教育理念および教育目標は、下記の通りです。

【教育理念】

自由快活な校風のもとで 多様性を尊重し共に高め合い

美の精神をもって広く社会に貢献できる 高い理想をもった創造性豊かな自立した

青年を育成する

その教育理念のもと教育目標は下記のように改訂しました。

【教育目標】

■多様なものごとに触れ 美しさや本質を見出す「感じる心」を豊かにする

■主体的に取り組み 広い視野で柔軟に深く思考できる「考える力」を伸ばす

■幅広い美術の知識や技能を学び 自分の思いや考えを形にする「表現する力」を高める

この教育理念と教育目標のもと、本校で身につけた力を土台にして、卒業後に美術工芸分野にとどまらず、社会のどの分野においても活躍できるような力の育成を実践しています。

本校の教育理念・教育目標や、教育課程、本校の取組等は本校ホームページや学校案内2024をご覧ください。

Q②:美術工芸高等学校の学校グランドビジョンを教えてください。

A:本校ホームページに掲載の京都市立美術工芸高校グランドビジョン(トップページ右側の下部に「学校グランドビジョン」のリンクがあります)をご覧ください。

Q③:美術工芸高等学校の学校グランドデザインを教えてください。

A:本校ホームページに掲載の令和6年度学校グランドデザイン(トップページ右側の下部に「学校グランドデザイン」の配布文書があります)をご覧ください。

Q④:美術工芸高等学校のスクールミッションやスクールポリシーを教えてください。

A:本校ホームページに掲載の令和6年度学校グランドデザイン(トップページ右側の下部に「学校グランドデザイン」の配布文書があります)をご覧ください。

授業に関する質問

Q①:授業はどのようなものがあるのですか。

A:大きく分けると、普通教科の授業、美術工芸専門分野の授業、総合的な探究の時間(探究Ⅰ・Ⅱ・F)があります。詳細は、学校案内2025を参考にいただくか、本校ホームページから教育課程表をご覧ください。

Q②:美術工芸の専門科目には、どのようなものがありますか。

A:1年次には「造形表現」「表現基礎Ⅰ」、2年次には「専門実習Ⅰ」「表現基礎Ⅱ」、3年次には「専門実習Ⅱ」「専門実習Ⅲ(アートフロンティアコースのみ)」「表現演習Ⅰ」「表現演習Ⅱ(アートパイオニアコースのみ)」「実習 A/B(アートフロンティアコースのみ)」を設置しています。詳細は、学校案内2025を参考にいただくか、本校ホームページから教育課程表をご覧ください

Q③:専攻はどのような分野があるのですか。

A:日本画、洋画、彫刻、漆芸、陶芸、染織、デザイン、ファッションアートの8専攻があります。詳細は、学校案内2025を参考にしてください。また、本校ホームページの「カテゴリ」から「授業の様子」を選択していただければ、専攻実習の授業の様子をご覧いただけます。

Q④:教育課程(カリキュラム)について詳しく教えてください。

A:本校の教育課程(カリキュラム)については、学校案内2025を参考にいただくか、本校ホームページから教育課程表をご覧ください

Q⑤:タブレット(iPad)を全員購入と聞きましたが、授業の中でどれくらいの頻度で活用するのですか。

A:全教科、ホームルーム活動、校外活動等、学校の教育活動全般に活用しています。校内には WiFi 環境が整備されており、生徒は毎日教具として iPad を持参します。教材配信・調べ学習・各種アプリを使った協働学習・Keynote アプリを使用するプレゼンテーション作成・発表など、すべての教科において活用しており、分かりやすく興味が持て、深い学びができるように工夫しています。また、ポートフォリオ作成や授業後の学習内容の振り返り、家庭学習・保護者への情報提供・外部機関との連携授業など多くの場面で活用しています。本校ホームページの「カテゴリ」から「授業の様子」を選択していただければ、タブレットを使用した教育活動の様子をご覧いただけます。

Q⑥:タブレット(iPad)の購入はどのようにしているのですか。また推奨機種があるのですか。

A:本校では全員購入をしていただいています。購入に関しては合格者説明会(合格者招集日・3月中旬)に購入方法と推奨機種について説明をさせていただきます。購入については各ご家庭で購入をしていただいています。本年度入学生の推奨機種は下記の通りです。

なお、学校の授業で活用するための iPad については、京都市独自の購入補助制度(本体のみ対象、所得制限あり)があり、該当者は購入費の一部が補助されています(令和7年度入学生については未定)。

●Apple 社 iPad 10.2 インチ(Wi-Fi モデル 256GB) 価格 71,800 円(税込み)

Q⑦:普通教科ではどのような授業をしているのか教えてください。

A:普通科高校と同じように、各教科(国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・外国語(英語)・家庭科・情報)の学習を行います。授業はクラスごとの授業を基本に、教科によっては習熟度別講座での授業を行っている科目もあります。各教科とも生徒にとって分かりやすく興味を持てるような授業を展開し、ICT 機器を活用した分かりやすく丁寧な指導を行っています。また、協働的な学びを推進しており、ペアワーク、グループワークなどを積極的に取り入れており、プレゼンテーションなども行っています。何をどれくらいどの学年で学ぶかは、学校案内2025を参考にしてください。本校ホームページから教育課程表をご覧ください。また、本校ホームページの「カテゴリ」から「授業の様子」を選択していただければ、普通教科授業の様子等を見ることができます。

進路に関する質問

Q①:卒業後の進路を教えてください。

A:多くの生徒が芸術・美術系大学や専門学校に進学します。芸術・美術系以外の上級学校進学者は、年度によって違いますが、毎年3～5名程度です。就職する生徒は少なく、多い年度で2名程度です。2023年度卒業生の進路結果については、本校ホームページの「カテゴリ」から「進路状況」を選択していただきご覧ください。

Q②:卒業後、大学も芸術・美術系に進学した場合、どのような就職があるのでしょうか？

A:芸術・美術系大学等に進学した生徒の就職先は、多岐にわたります。やはり一番多いのは美術・工芸・デザイン分野関係の企業や事務所等に就職をしています。作家やデザイナーとして独立する生徒もいます。起業する生徒もいます。それ以外の分野としては、一般職をはじめ、介護、美容、調理、製菓など専門職に就く生徒もいます。

Q③:美術系大学に進学したいと思っているのですが、進路保障体制はどのようになっていますか？

A:美術系大学に進学する場合、多くの大学では実技試験が課せられます。この実技試験は受験したい分野ごとに異なっています。本校では美術の基礎基本の力として、1年次より観察力・考察力・

表現力・鑑賞力などを表現基礎Ⅰ・Ⅱで学びます。もちろん専門実習の造形表現や実習Ⅰ・Ⅱにおいて学ぶ力も美術系大学受験には欠かせない力となります。その上で、3年次の表現演習科目において、個々の進路に応じた実技試験内容を学びます。また、現在大学入試は多様になっていますが、本校には1年次から3年次までを見通した進路指導体制を確立しており、入試情報を適確に収集し、生徒一人ひとりの進路保障のために多くの教員で丁寧にサポートします。

Q④:大学受験をするとき、美術系以外の大学を志望したら、その対応をしてもらえますか。

A:芸術・美術系大学以外の大学受験の場合、受験内容が大きく変わります。その場合、生徒の希望がかなえられるように丁寧に進路指導をさせていただき、できる限りの対応をさせていただきます。ただし、志望校によっては本校で学ぶ科目以外が受験に課される場合があり、教育課程で保障できないこともあります。

行事に関する質問

Q①:「美工の文化祭はすごい!」と聞きますが、どのようなことをしていますか。また見に行くことはできますか。

A:クラス発表やクラブ活動の発表などがあります。クラス発表ではどの学年・クラスも演劇の発表をしています。脚本・背景・道具・衣装制作・演出・音響・照明等創造的な感性を生かして生徒自ら主体的になって考え制作し、短期間のうちに完成させ、文化祭で上演します。ただし、文化祭は平日に本校体育館で開催しており、一般の方(中学生含む)の見学はできませんので、ご了承ください。

Q②:修学旅行はあるのですか?

A:修学旅行は実施していません。ただし、1年次3月に「美術研修旅行」を3泊4日で行っています。行先は東京方面の美術館や文化施設を訪れ、美術専門の高校ならではの課題研究型の研修となります。

Q③:美工ならではの体育祭を実施していると聞いていますが、どんな内容なのですか。

A:どの高校でも行われている競技種目はありますが、大相撲美工場所、二人二脚一心同体、専攻対抗リレーなど、本校独自の種目もあります。競技種目は毎年全校生徒からのアンケートをもとに、生徒会の体育祭実行委員会で決めています。今年は昨年の内容を踏まえ、11月の開催に向け、今後競技内容等を決めていくことになります。

生徒会活動に関する質問

Q①:生徒会活動は盛んですか。

A:生徒会執行部として生徒会執行部長、副部長、書記、会計局長を中心に、各クラスで各委員会の委員を選出し、運営をしています。生徒総会は前期・後期各1回ずつ行い、生徒会活動の計画や報告などを行っています。大きな特徴としては、情報モラル委員会を設置し、1年生からICT機器(スマホやタブレット含む)の使用のルールづくりや、文化祭時にSNSにおいてトラブルが起きないように生徒間で啓発をしあう活動などがあります。また、生徒会を中心に、災害で被災された方への支援のための募金活動等を生徒主体で行っています。本校ホームページの「カテゴリ」から「学校の様子」を選択していただくと生徒会活動の取組みが紹介されています。

クラブ活動に関する質問

Q①:クラブ活動はどのようなクラブがあるか教えてください。また、盛んに活動をしているのでしょうか。

A:クラブ活動は大きく分けて、文化系クラブと体育会系クラブがあります。

(文化系クラブ)映画研究部、写真部、フォークソング部、漫画研究部、演劇部、園芸部
粘土部、異文化研究部、全制作部、合唱部

(体育会系クラブ)バレーボール部、ワンダーフォーゲル部、ダンス部、バドミントン部
バスケットボール部、ストリートパフォーマンス部、ソフトテニス同好会
卓球同好会

以上のクラブ活動がありますが、普通科高校のように毎日練習をして対外試合やコンテストに出場するような活動は行っていません。詳しくお知りになりたい場合は、オープンスクール時の相談会でお尋ねください。”

学校規則に関する質問

Q①:アルバイトはできますか。

A:アルバイトについては、「就業の目的が明確で妥当性があり、かつ学業に支障のない範囲において許可することがある」と定めています。18歳で成人になることを踏まえ、生徒自らが保護者とよく話し合い、判断をし、責任を持てる力を養いたいと考えています。詳細については、本校ホームページ掲載の生徒規定(トップページ右側の下部に「生徒規定(校則)について」のリンクがあります)をご覧ください。

Q②:携帯電話やスマホの持込はできますか？

A:持ち込みは禁止していませんが、授業中などの使用を禁止しています。

Q③:登校時の服装は自由ですか。

A:本校では、生徒規定に「身なりについては、学校にふさわしいものを各自が家庭で十分に話し合い、適切に判断すること。また、安全面を十分考慮した服装を着用すること。」と定めています。アルバイトと同様に、18歳で成人になることを踏まえ、生徒自らが保護者とよく話し合い、判断をし、責任を持てる力を養いたいと考えています。詳細については、本校ホームページ掲載の生徒規定(トップページ右側の下部に「生徒規定(校則)について」のリンクがあります)をご覧ください。

学費等に関する質問

※以下の質問に対する回答は、2024年度における予定経費等を掲載しています。
参考にしてください。

Q①:入学金はどれくらいかかるのでしょうか？

A:入学科 5,650 円(令和6年度)は、入学説明会でお渡しする「納付書」を使用し、各金融機関にて3月末(入学)までに納入していただきます。

Q②:授業料はどれくらいかかるのでしょうか？

A:授業料は、月額 9,900 円年間 118,800 円(令和6年度)を「納付書」を使用し、各金融機関にて納入していただきます。

Q③:入学金および授業料以外の費用は1年間でどれくらいかかるのでしょうか？

A:1年次は、学年費・生徒会費・PTA 会費等の学校納入金約 49,500 円(令和6年度)を、入学前に口座登録していただいた京都銀行から5月・9月に自動引き落としさせていただきます。また、美術研修旅行費として約 75,000～85,000 円を指定の旅行業者に別途お支払いいただきます。

2年次は、約 45,990 円、3年次は約 41,190 円～73,470 円を2期にかけて自動引き落としさせていただきます。また、教科書代・体操服代等や入学前に買う画材や iPad 等の購入費用が必要となります。(実習材料費は別途かかります。)

Q④:実習材料費は学年によって違うと思いますが、どれくらいかかるのでしょうか？

A:実習材料費は大きく分けて、8 分野専門実習で必要となる費用と、全員共通の授業「表現基礎 I・II」及び 3 年次の進学別に実技対策を行う「表現演習 I・II」があります。専攻する分野や進学先等により実習材料費は異なりますが、1年次は 20,000 円～40,000 円、2年次は 40,000 円～60,000 円、3年次は 50,000 円～70,000 円程度かかります。また 2 年次からは各専攻実習で使用する画材や機材など個人持ちの費用が必要となります。詳しくお知りになりたい場合は、オープンスクール時の相談会でお尋ねください。

助成金等に関する質問

※以下の質問に対する回答は、2024年度における制度等を掲載しています。参考にしてください。

Q①:奨学金などの制度はありますか？

A:学校独自に設けている奨学金制度はありません。しかし外郭団体より様々な奨学金制度の募集があり、随時 HR にて掲示・案内をしています。前年度の募集案内を参考に作成した主な奨学金制度についての一覧を、入学時のオリエンテーションにて配布します。各奨学金制度によって金額等条件や募集人数が異なり、また成績等の諸条件があるものもあります。

Q②:就学支援金などについて教えてください。

A:保護者の経済的負担の軽減のための国の制度として、授業料が実質無償になる「高等学校等就学支援金」という制度があります。受給には、所得制限があります。親権者(保護者全員)の課税標準額(課税所得額)に6%を乗じた額から市町村民税の調整控除額を控除した額が基準額未満の世帯が対象となります。国の制度ですので、年収の目安や制度の詳細は、文部科学省の HP で「高等学校修学支援金」と検索されると確認できます。申込時期は、入学後の4月です。基準額以上の世帯は、授業料の納入(年額:118,800 円)が必要になります。

また、学校の授業で活用するための iPad については、京都市独自の購入補助制度(本体のみ対象・所得制限あり)があり、該当者は購入費の一部が補助されます。こちらは京都市の HP で「京都市立高等学校 学習用端末購入補助金制度」で検索してくださると、詳細をご確認いただけます。

(令和6年4月現在)

その他の質問

Q①:国際交流はしていますか。

A:国際交流としては、京都パレスライオンズクラブの支援を受けて、毎年ヨーロッパ美術研修旅行(校内で2年生3名を選考)としてイタリアのフィレンツェを訪問し、約1週間の研修を行っています(今年度実施は未定)。昨年度からはアメリカ・ボストンへの研修を実施(校内で1年生3名を選考)し、現地にあるボストンアーツアカデミー美術高校との交流を行いました(今年度実施は未定)。また、京都にある芸術・美術系大学の留学生との交流も行っています。

Q②:食堂はありますか。あるのであればどんなメニューがありますか。

A:本校独自の食堂は現在ありません。したがって、生徒は昼食を持参している状況にあります。なお、京都市立芸術大学に食堂施設ができた場合、共用で利用できるようになります。

Q③:通学時間がかなりかかる遠方の地域から受検を考えています。学校の寮などがありますか？

A:申し訳ございませんが、学校の寮はありません。遠方からの受検については、オープンスクール時の相談会でお尋ねください。